

1 研究テーマ

生き生きとした学校づくりをめざして ～結果を成果につなげる学校評価～

2 はじめに

これまでの根雨小学校の評価活動を振り返ってみると、調査項目が教育活動全般についての網羅的な内容で、重点目標に対しての評価が焦点化していないためか、評価が形式的なものになり、評価結果の分析において職員の意見交換が消極的であったり、毎学期同じような反省が繰り返されたりと、評価が効果的に学校改善に生かされているとはいえない実態がある。「学校を変えたい。」「今よりももっと良くしたい。」という思いは全職員が持っているが、その思いと評価活動の実態がうまくフィットせず、目の前に迫った仕事に追われ、改善に向けた有効な手段が見出せていないのが現状である。

そこで本研究は、根雨小学校をより一層活性化していくために、効果的・効率的な学校評価のあり方を中心に研究を進めていくこととした。特に、学校の定めた重点事項を年間通していかに継続的に取り組んでいくか、そのための評価活動にはどのようなものがあるか、また、多忙感を解消し、全職員が協働で学校改善に取り組んでいくためにはどのような方法があるか等について、研究を深めていきたいと考えている。

3 研究の目的

学校改善に向けて、効果的・効率的な評価活動を進めていくためにはどのような方法があるのか、所属校での自己評価の見直しを中心に研究する。

4 研究内容

(1) 学校評価について

(文部科学省：学校評価ガイドラインより)

① 目的

各学校が自らの教育活動の成果や取組を不断に検証することにより

- 1) 学校運営の組織的、継続的な改善を図る。
- 2) 保護者や地域住民等に対し、適切に説明責任を果たし、その理解と協力を得る。
- 3) 学校に対する支援や条件整備等の充実につなげる。

② 評価の手法

- ・ 自己評価
- ・ 学校関係者評価
- ・ 第三者評価

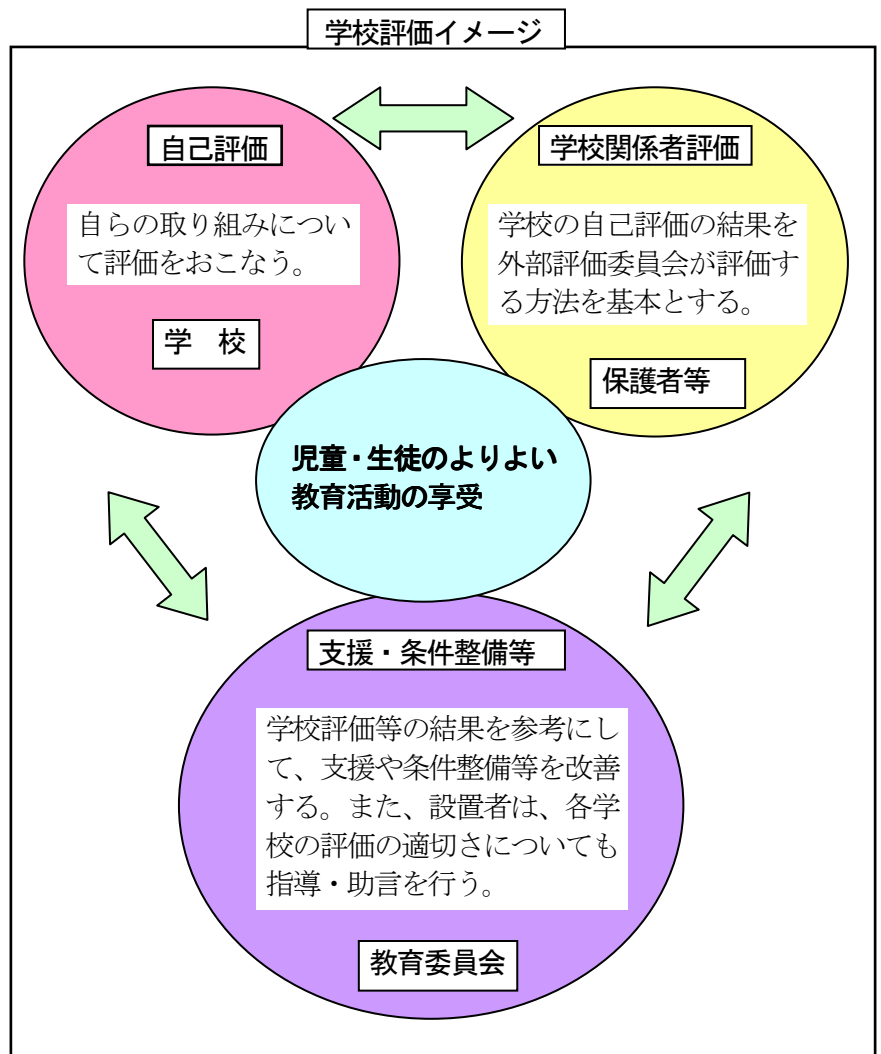
(2) 所属校での取り組み

① 教育反省（自己評価）の見直し

1) 評価項目の見直し

- 効果的、効率的な評価のために項目を精査

- ・ 学校教育目標、重点目標、各教科の努力点等に対応した項目設定となっているか。
- ・ 重複する内容の項目はないか。
- ・ 行事等、他の場面でも評価改善の取り組みができるものはないか。



2) 評価尺度の変更

- より細かい分析のために3件法を4件法に変更。
 - ・「良好」「普通」「改善」→「よい」「ほぼよい」「もうすこし」「改善」

② 校内研究会の工夫

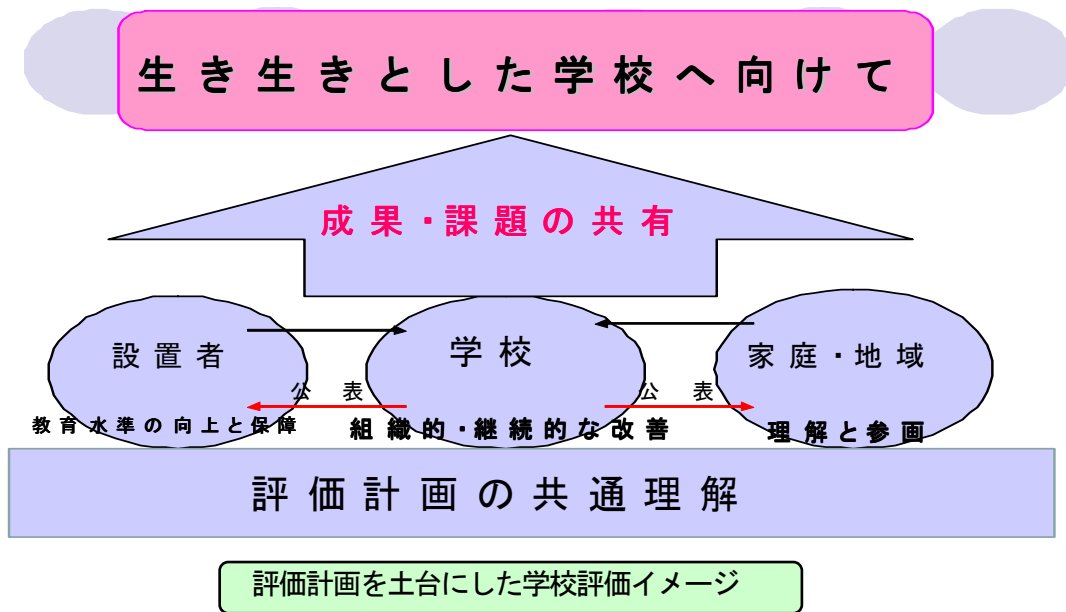
- 改善につながるように校内研究会資料や実施方法を工夫
 - ・状況把握がしやすいように、集計した教育反省データを達成度ごとにフォント変更、色分け。
 - ・改善につながるよう課題に焦点を絞ったワークシートの準備。
 - ・全員の意見が出やすいよう、KJ法的な話し合いの導入。

③ チェックシートの作成

- 重点目標の意識化と取り組みの継続を図るためのチェックシートを作成し、月末にチェック
 - ・重点目標に絞った内容による意識化。
 - ・より具体的に、基準がわかりやすい評価項目。
 - ・自己の取り組みだけではなく、児童の様子もチェックし変容を確認。

④ その他のアンケート等の活用

- 評価分析の精度を高め、改善の方向性をより確かにするための資料として活用
 - ・行事アンケートの改善（感想だけではなく、目標にあわせた評価項目を設定）
 - ・Q-Uアンケートの資料としての活用（児童アンケートのひとつとして）
 - ・保護者アンケートの活用 他



5 研究のまとめ

P-D-C-AサイクルのP（計画）を学校の内部はもちろん、家庭・地域、設置者が共有することで自己の取り組みについて、主体的な評価活動につながっていく。主体的な評価活動は、具体的な改善につながり、やらされ感も減少する。計画を土台に、成果と課題が共有できる学校評価に取り組んでいきたい。

6 今後の課題

評価結果の共有という面で、公表が進んでいない実態がある。また、取り組みに即した評価項目の見直しが必要である。この2点に留意した評価計画作りが必要である。

7 終わりに

学校ではあらゆる教育活動で評価がおこなわれている。評価活動を効果的に改善につなげるためには、「本当に必要なことを評価する」、「あらゆる角度から評価する」ことが大切となる。必要なことを多方向から評価した評価結果は、自己の取り組みの裏づけとなり次のステップへとつながっていくであろう。こうした評価サイクルをつくるためにこれからも学校評価の方法について研究していきたい。